

中国版“ゆとり教育”政策 ～「双減」～

大分市武漢事務所 賈 芳

これまで、中国での教育費は「底なし」と言える状態でした。幼稚園から大学へ向けて、子どもをスタンダードラインから絶対に脱落させられない。少しでもいい教育を受けさせてやりたい、そして将来は人よりもいい生活をさせてやりたい、幸せに暮らしてほしいという一心です。そのためには、と少ない場合でも数十万元、多い場合は数百万円まで達する教育費を支払うことも珍しくない状態でした。

この過剰な教育費は家庭にとって大きな負担となり、社会にも不要な競争を生み出し、各方面に「憂慮」をもたらすこととなりました。

一人の子どもを育てるのに掛かる学校外活動費（塾や習い事）は、家庭によってさまざまですが、最も負担の大きい小・中学校（9年義務教育期間中）の費用を表にまとめてみました。

年 代	学習塾の項目	費 用
6歳～12歳 (小学生)	習字 作文 数学 英語 音楽 絵画等	19万元～40万元 (323万円～680万円)
12歳～15歳 (中学生)	国語 数学 化学 物理 英語等	16.5万円～30万円 (281万円～510万円)

こうした中、2021年7月に中国政府は子どもの健康を守るため、小・中学生の宿題と学習塾通いを減らす教育改革「双減（二つの軽減）」を打ち出しました。この政策を通して、子どもと保護者の負担を軽減し、教育費の抑制から少子化対策につながることを期待されています。具体的には、以下のとおりです。

中国版“ゆとり教育”政策 ～「双減」～

大分市武漢事務所 賈 芳

① 放課後時間の調整

授業は月曜日から金曜日までとし、放課後の授業延長を2時間までと規定しました。

② 学習塾の利用制限

学習塾の新設は禁止、既存の学習塾は非営利組織とされました。週末や祝日には通えないように厳しく制限されました。

③ 家庭での宿題軽減

小学1～2年生には記述式の宿題を出さない、小学3～6年生の宿題は1時間半以内に終わらせる量に定められました。

～武漢市小学校の取り組み～

9月に新学期が始まり、武漢市の小・中学校は政府からの「双減（二つの軽減）」指示のもとに動き始めました。授業の終了時間は17時20分までと18時までのいずれかを選ぶようになりました。さらに保護者の希望により、終了時間を延長したい児童・生徒に対して個別対応できるようになりました。「双減（二つの軽減）」以前は15時～16時に授業が終わり、放課後はほとんどの子どもが学習塾に通っていましたが、今学期からは保護者の終業後に子どもを迎えに行き、一緒に帰宅することができるようになりました。

～子どもと親の反応～

「双減（二つの軽減）」によって、子どもたちは自由に使える時間が増え、芸術やスポーツなど学業以外の興味あるものに時間を使えるようになり、外で友達と遊ぶ姿がよく見られるようになりました。

筆者の娘の付き添いで水泳教室に行った時、同じく付き添いで来ていた母親と話をする機会がありました。

「時間の余裕ができたので、子どもが習いたがっていた水泳教室にも通えるようになりました。親子一緒にいられる時間も増えて本当に良かったです」とのことでした。一方で、「塾へも行かずに学校の宿題も少なく、遊んでばかりでいいのか」と心配する保護者の声もあります。

中国版“ゆとり教育”政策 ～「双減」～

大分市武漢事務所 賈 芳

「双減（二つの軽減）」に対して、子どもの将来を心配する親もいれば、前述の水泳教室で出会った親のように喜ぶ声もあります。また、「双減（二つの軽減）」によって教師の仕事が増えた等賛否両論ありますが、やはり子どもは子どもらしく過ごすことが一番大事だと大人になった今、筆者自身は思います。

まだまだ実施の初期段階なので、今後「双減」が確実に浸透していくか注目されています。



絵画教室の美術館見学授業



放課後お友達と一緒に遊ぶ子どもたち



絵画教室の野外スケッチ授業

※写真は武漢事務所スタッフ撮影